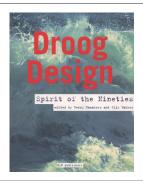
嬉しくなるから創りたくなる・・・その繰り返しがデザインなのかも

八戸工業大学 感性デザイン学部

創生デザイン学科 准教授 博士(工学) 横溝 賢

プレゼンが上手くいったとき、料理が美味しくできたとき、そういう嬉しい体験には、いいものを作るためのノウハウが隠されています。 デザインは、こうした創意工夫の智恵を人に伝えようとすることから始まるのかも知れません。このコーナーでは、「生きること」と「創ること」を一体と捉え、自分のやり方で生活世界を「知るための探索」と「変えるための創造」を繰り返してきた実践者たちによる、生きたデザイン知の物語りを紹介します。



Droog Design spirit of nineties

編: Gijs Bakker, Renny Ramekers

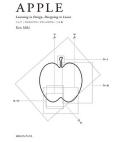
シンプルでエレガントなデザインが主流であった90年代、オランダ発のドローグデザインは、牛乳瓶の照明やコンドームを型どった花瓶など、レディメイド(既製品)の応用加工により全く新しいフォルムを具現化した実験集団でした。彼らによる実験プロダクツは今見ても新鮮です。流行はだいたい30年周期でリバイバルします。そろそろドローグデザインがリバイバルするかもしれません。



BRUNO MUNARI

「ブルーノ・ムナーリ」展 公式図録

E テレ「デザインあ」でも、たびたび紹介されるイタリア人デザイナー ブルーノ・ムナーリ。デザイン界の 仙人みたいな人です。ムナーリは生涯をかけて、日常を知るための表現探索をおこない、またその過程で得た 創造的な思考方法を理論化し続けました。本書は、ムナーリが自らの創造性を展開するために実験した膨大な 表現とその知恵が集まった贅沢な一冊です。



りんご 学び方のデザイン デザインの学び方

三木 健

三木健さんはもともとはグラフィックデザイナーで、今は大学の先生をしています。その三木さんがりんごを 題材に、学生と共にさまざまな素材や道具を使ってりんごの表現技法を試みた作品集です。りんごの名産地 青森でも、こんなデザインの遊びと学びができるといいですね。



olafur eliasson: contact

Olafur Eliasson

デンマーク生まれのオラファー・エリアソンは、都市空間に自然現象を再生する作品/装置をつくる現代 美術家です。彼が作り出す装置には、自然の美を認知する仕組みを明らかにする作用があります。この本 『Olafur Eliason:Contact』は、オラファーの創造的な思考のプロセスに触れられるだけでなく、インスタ レーション空間を擬似的に体感できるように編集・加工が施されており、この本自体が一種の再生装置 と言えます。暗闇で読むのも面白いですよ。



Hussin Chalayan from fashion and back

「フセイン・チャラヤン ファッションにはじまり、そしてファッションへ戻る旅」公式図録 キプロス島出身でロンドンを拠点に活躍するファッションデザイナー フセイン・チャラヤンは、民族や技術の移動と融合により変容する生活文化の様相を、服というメディアを使って表現しています。彼のコレクションには、混沌とした現代社会において個(アイデンティティ)の存在を表す服はどうあるべきかについての哲学的な問いがあります。



ビジュアル・コンプレキシティ 情報パターンのマッピング

マニュエル・リマ

複雑・無制限に拡張する情報ネットワークをビジュアライズするためのデザイン原理はあるのか? マイクロソフト Bing のシニア UX デザインリーダーのマニュエル・リマは、この無謀とも言えるべきデザインの問いをたて、人類が数千年もの間取り組んできた知識の図解化手法を調べながら、情報検索社会において自律分散的に組成される知識のビジュアルデザイン手法を体系化した野心的な一冊です。



プロジェクトとパッション

エンツォ・マーリ

イタリアデザイン界きっての思想家であるエンツォ・マーリによる、デザイナー、もしくはデザインをこれから学ぶ若者向けの哲学本。本書は、産業の合理化を追求するうち、自らの創造行為の理由すらも見えなくなりつつあるデザイナーに対する批判を込め、先行き不透明な時代においてユートピアを志向するデザイナーのあるべき態度を、マーリが愛のある怒りとも言える情熱を込めて語り尽くした一冊です。



Achille Castiglioni

著: Paola Antonelli / 絵: Steven Guarnaccia

農業用トラクターの座椅子のリデザインやフィッシングリールを使った照明デザインなど、レディメイド (既製品)を使ったユニークなアイデアと高い機能美を備えた名作を数多く生み出したイタリア人デザイナー アキッレ・カスティリオーニ。同氏がデザインした様々な製品のコンセプトを微笑ましいイラストと共に 解説した本書は、日常生活からデザインのアイデアを探すことが楽しくてしようが無いカスティリオーニの 人柄が伝わる一冊です。



Design Metaphors

Ettorre Sottsass

エットーレ・ソットサスは、1969年にヴァレンタインという真っ赤なポータブル・タイプライターをデザインしました。重くて無機質なタイプライターが主流であった時代に、優美なデザインのヴァレンタインは所有することの喜び与え、人と事務機器の関係性を変革しました。ソットサスが本書を書いたのもちょうどこの頃。売れっ子となったソットサスが、「そもそもデザインってなんだろう?」という哲学的な問いを山中で思索した体験の物語です。



マイパブリックとグランドレベル 今日からはじめるまちづくり 田中 元子

みんなの「公共」という考え方はもう古いのかもしれない。都市の様々なグランドレベルに出没してコーヒーを振る舞うことを始めた著者の田中さんは、一杯のコーヒーからコミュニケーションが生まれる社会活動に無償の喜びを発見する。自分がやりたいこと、やれることを緩やかに実践するなかで、まちにコミュニケーションを生んでいく「マイパブリック」が未来のまちづくりなんだ!という期待を感じさせてくれるオススメの一冊。

八戸工業大学 感性デザイン学部 創生デザイン学科 准教授 博士(工学)

横溝 賢

大学卒業後広告代理店にて主に映画(学校の怪談シリーズなど)の広告制作に携わった後、2001年にイタリアの大学院に留学。大学院卒業後、ミラノにてスコットランド人と共にデザイン会社を立ち上げイタリア企業とのデザイン業務の傍ら、芸術大学の講師や研究機関のデザインリサーチャーを兼務したのち、2008年に帰国し、2013年より現職。

